

NEWS LETTER

2025/03

vol.37

CONTENTS

- ・研究者を目指す学生の研究力向上のための支援をしています

茨城大学ダイバーシティ推進室

ダイバーシティ推進室は、平成28年4月に男女共同参画推進室を改称して開設されました。

学内外の意識啓発、ワーク・ライフ・バランス環境整備、研究力向上と女性リーダー育成、次世代育成の活動を軸に、お互いの個性が尊重されて、学生・教職員それぞれの能力が十分に活かされる、ダイバーシティ環境が整っている大学づくりを進めています。

研究者支援

研究者を目指す学生の研究力向上のための支援をしています

次世代若手・女性研究者育成支援制度

本学で学び、研究者を目指す学生を支援し、今後の学内外でのさらなる活躍のための能力向上、また、研究意欲の向上に資することを目的として、研究費の助成および研究者としてのスキルアップのための支援を実施します。また、支援を受けた学生にオープンキャンパス等のアウトリーチ活動に参加してもらうことにより、中高生の本学進学モチベーション向上や研究者になることについての視野拡大を図ります。

令和5年度より支援開始、助成費を一人あたり25万円として学内で公募しています。



■ 全学的な次世代若手・女性研究者育成支援の取り組みと展開について

I：シーズの発掘

(入学課＋ダイバーシティ推進室)

⇒ 中高生に進学後のキャリアパスやロールモデルを示すことで、大学進学モチベーション向上や理系進学への視野拡大を図る

- ・本学の修士・博士学生が、進学後のキャリアパスやロールモデルをオープンキャンパスや中学・高校訪問、模擬授業、1Dayキャンパスなどのイベントで直接プレゼンして示すことで、中高生の大学進学モチベーション向上に併せて、発表者のスキルアップも図る。
- ・特に、女性教員と理系女子学生の積極的な参加を促し、女性研究者のキャリアパスやロールモデルを示し理系へ進学する女性の裾野拡大を目指す。

IV：博士（研究者）キャリアデザイン

(ダイバーシティ推進室＋研究・産学官連携機構)

⇒ 自身の研究に加え研究者を目指す動機や今後のキャリアパスを整理、今後のキャリアデザインに繋げる
⇒ 本学の研究やダイバーシティに触れ、視野を拡大

■ 支援を受ける学生は全員「自身のキャリア＋研究成果」の報告と「支援スタッフ登録」を必須、加えて以下の取り組みのいくつかに協力

- ・自身のキャリア＋研修成果については、ニュースレター等に寄稿
- ・iRICやダイバーシティ関連のイベントや活動等の補助
- ・プレゼン用の紹介動画等コンテンツの作成
- ・作成した動画などを使用し、オープンキャンパスや中学・高校訪問、模擬授業、1Dayキャンパスなどでの発表
- ・ライブイベント研究支援員として研究補助（他研究室を含む）など

II：意識啓発＋キャリア支援

(キャリア支援室＋ダイバーシティ推進室)

⇒ 大学院進学後のキャリアパスや、他機関を含む女性研究者の多様なロールモデルを知ることによって博士課程を含む大学院進学へのモチベーションを醸成

- ・企業で働く研究者を訪問するバスツアーの訪問先企業や訪問件数を増やすことで、様々な種類の研究や研究者を知る機会を増加させる
- ・学部生/大学院生向けに若手女性教員や博士学生と学生による座談会を実施し、女性研究者のキャリア形成の現状を示すことを通じて、大学院進学後のキャリアパスなどの不安解消を図る(IVで作成した研究成果プレゼンコンテンツも使用)

III：研究者育成＋研究力向上

(研究・産学官連携機構＋ダイバーシティ推進室)

⇒ 研究者としてのスキルアップのための支援を行うことで、研究者としての資質・能力の向上を図る

■ 国際会議参加や調査研究の旅費等、研究スキルアップのための経費を補助

- ・研究内容での公募、URAによる審査(エンパワーメント支援制度同様)
- ・対象者は、本学博士後期課程進学希望の博士前期課程学生または研究者を目指す修士・博士課程学生
- ・1件あたり25万円×10名(内5名女性優先枠)

※経費は研究等支援事業基金を使用(学生やポスドクの若手研究者支援)

※配分予算はダイバーシティ推進室で管理・支出

ダイバーシティ推進室では、学生からの申請はもとより、先生方からの推薦もお待ちしております。助成金は物品購入・出張旅費等幅広く使用いただけます。ぜひ研究室で話題にし、申請ください。

支援制度実施初年度となる令和5年度には、理工学研究科・農学研究科の学生3名が採択となり、自身のテーマに基づいた研究をしました。



◇令和5年度「次世代若手・女性研究者育成支援制度」採択者一覧

(所属・学年は採択時のもの)

所属・学年	氏名	研究テーマ
農学研究科 修士課程2年	秦 奇	ラナンキュラス園芸品種の花色構成成分
理工学研究科 機械システム工学専攻 博士前期課程2年	小幡 啓地	TBAB-CO ₂ ダブルハイドレートの 二酸化炭素貯留層性能評価
理工学研究科 量子線科学専攻	戸嶋 涼	光増感色素BODIPYを配位子にもつ コバロキシム錯体の共結晶作成



令和5年度採択学生の皆さんには、アウトリーチ活動の一環としてオープンキャンパスで研究の内容に加えて、どうして研究者になりたいと思ったのか、茨城大学でどんな学生生活を送っているのかなどを発表していただきました。

また、来場者アンケートへの協力依頼や保護者の方や学生さんからの質問にも丁寧に回答していただきました。

◇制度を利用した学生の声

若手研究者育成制度を利用したおかげで、実験に必要な器具を購入することができ、計画していた実験を無事に進めることができました。この制度は、研究活動の幅を広げる非常に貴重な機会となりました。また、今回の経験を通じて、自分自身に自信をつけることができました。

若手研究者として、そして理系女子として、時折、自分の研究に自信が持てなくなる瞬間もあります。しかし、修士課程の段階で研究費を申請し、その資金を実験に活用できたことは、大きな達成感を得るとともに、自分の取り組みを認めてもらえたように感じました。

今後は、この制度の利用を通じて得られた機会や自信を大切にしながら、研究者としてさらに成長していけるよう努めてまいりたいと思います。



農学研究科(採択当時)
秦さん



理工学研究科
小幡さん

私が次世代若手・女性研究者育成制度を利用して出来た大きなものの一つに、制度申請の経験があります。申請当時の私は大学院修士課程1年目であり、この時期に申請できる研究支援制度はとても貴重です。申請時に記述した研究背景・目的や実験の概要、研究実績などの項目は、自分の研究を見つめ直す機会であると同時に、研究室外部の人に評価してもらう得難い機会でした。また、進路として研究者の道を最初に真剣に検討し始めたのは、この制度がきっかけです。研究者としての活動を具体的に想像し、行動していくうちに、研究者の道に進む気持ちが広がりました。

アウトリーチ活動では、オープンキャンパスで一般の方に、「なぜ研究者を目指すのか」や「自身の研究」を説明し、自分のルーツを改めて認識できたのに加えて、どうすれば平易な説明ができるかなど貴重な経験をさせていただきました。今後はこの制度を通して得た貴重な経験を、発表の場や資料作成などの研究活動に生かしていければと思います。

いただいた予算について、一部を自分の必要な試薬の購入に充て、大部分は研究室全体の試薬や壊れたため作業の滞っていた器具の購入に充てました。その結果、自分の研究に対する影響は限定的でしたが、費用面での問題が取り除かれたため収率の低い実験でも取り組みやすくなったと感じました。また、壊れた器具を新しくしたことでよりスムーズに作業に取り組めたかと思います。

同じく制度を活用された方の話を聞き、研究に対しての姿勢に深く感じ入りました。自分もその姿勢を見習い研究に取り組みたいと思います。



理工学研究科
戸嶋さん

◇令和6年度「次世代若手・女性研究者育成支援制度」採択者一覧

2年目となる今年度は、理工学研究科・農学研究科・教育学研究科、計6名の学生が採択され、研究を進めています。自身の研究を進めるとともに、今後、研究発表や研究室紹介等のアウトリーチ活動にも参加いただく予定です。



所属・学年	氏名	研究テーマ
理工学研究科 複雑系システム科学専攻 博士後期課程1年	伊藤 温海	アルミニウム合金の粒界析出における研究
理工学研究科 量子線科学専攻 博士前期課程2年	小泉 遼介	精密物性制御による量子臨界揺らぎを介した エキゾチック超伝導現象の包括的理解
農学研究科 修士課程2年	徐 戴天舒	農業を通じた環境再生 ：土壌炭素貯留と作物生産シナジー
理工学研究科 機械システム工学専攻 博士前期課程2年	小幡 啓地	堆積層内におけるCO ₂ ハイドレートの浸透率評価
理工学研究科 電気電子システム工学専攻 博士前期課程1年	鈴木 雄大	機械学習を用いた自動車ミリ波レーダ間干渉抑圧技術
教育研究科 教育実践高度化専攻 教科領域コース2年	清水 舜也	フリーな位置でパスを受けるために必要な 状況判断能力の検討 —知識構造に焦点を当てて—



この事業については、茨城大学基金「研究等支援事業基金」を財源とするものであり、今後も大学院生の研究力向上のため、継続的に実施される予定です。【[茨城大学基金HP](#)】